

石川県における 2022/23 シーズンのインフルエンザ流行状況

－COVID-19 発生前との比較－

◎小橋 奈緒¹⁾、城座 美夏¹⁾、成相 絵里¹⁾、児玉 洋江¹⁾
石川県保健環境センター¹⁾

【はじめに】インフルエンザは例年冬季に流行するが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響により、2020/21、2021/22 シーズンは流行せず、2022/23 シーズンには3シーズンぶりに流行した。今回我々は、石川県における2022/23 シーズンのインフルエンザ患者発生状況およびインフルエンザウイルス遺伝子検査の結果について、COVID-19 発生前と比較したので報告する。

【方法】感染症発生動向調査事業に基づく県内48か所（小児科29か所、内科19か所）のインフルエンザ定点医療機関（定点）から報告されたインフルエンザ患者数、そのうち5カ所のインフルエンザ病原体定点医療機関（病原体定点）から提出された検体の遺伝子検査結果を比較した。比較する期間は、過去7シーズン（2015/16～2021/22）のうち、COVID-19の影響を受けていない4シーズン（2015/16～2018/19）とし、シーズンの区切りは第36週から翌年の第35週までとした。

【結果と考察】2022/23 シーズンの流行状況をCOVID-19発生前と比較したところ、インフルエンザ患者数の累積は

14,675人と最も少ない人数であった。また、年齢階級別で見ると、1歳以下を除く15歳未満では不変あるいは増加していたのに対し、高齢者では激減していた。この一因として、COVID-19流行により定着していたマスク着用やこまめな手洗い等の感染対策が、低年齢層から徐々に解除されていることが考えられる。

また、病原体定点から提出された検体の遺伝子検査結果は、COVID-19発生前はAH1pdm09亜型とAH3亜型のいずれかが優勢、または同時流行し、シーズン後半にはB型が流行していたが、2022/23シーズンでは、シーズンを通してほぼ全てがAH3亜型だった。

2023/24シーズンは早々に流行が始まっており、当日は当該データも加え、解析した結果を報告する。

連絡先 076-229-2011（代表）